

平成31年度 学校評価実施報告書

<p>教育目標</p> <p>校是<最高経営理念> —志 かがやく—</p> <p> 唯一無二 心を一つに 未来を創る</p> <p>自由と規律を尊び、志を高く、多様な学びを通して主体的に学び、持続可能な社会と誇れる地域の担い手を育成する。</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>己・学校全体としては、学校教育目標に向け、生徒自らが自主的かつ主体的に取り組めるようになってきた。特に、授業において、インプットの授業だけでなくアウトプットを取り入れた授業形態が多くみられ「自ら考え表現し聴く活動」が前年度より定着してきた。</p> <p>・各学年において、多様な学びについては課題もみられるが、教育目標達成に向けた取組については一定の成果は感じられる。</p> <p>・1年生から厳しい状況にあった3年生は、この3年間の学年だけでなく学校組織としての取組と、最終進路に向けた意識付けを粘り強く行うことにより、学力の定着において改善することができた。</p> <p>・来年度も年度当初から課題である「学力向上」に向けた取組を、引き続き推進する。</p> <p>・次年度に向け、「花山中学校ブロック学校運営協議会」立ち上げ、小中の課題を共有し、義務教育9年間を通して児童・生徒の教育を充実を図る。</p>
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○「地域の担い手の育成」と「地域貢献」を大切にしたい取組みを今後も継続してほしい。</p> <p>○小中一貫の取組み（小中連携）を理解することができた。今後もすすめてほしい。</p> <p>○地域行事・学校行事など一つ一つ丁寧に取り組んでいただいている。</p> <p>○小中の連携は年度当初より進んでいると感じるが、9年間を見据えた取組について、より検討していただきたい。</p> <p>○小中の課題を共有し、義務教育9年間を通して児童・生徒の教育の充実させるため、「花山中学校ブロック学校運営協議会」立ち上げは協力したい。</p> <p>○花山中学校の生徒や地域の実態を把握し、その課題解決が教育活動において行われている。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 10月 25日	学校運営協議会・地域生徒指導連絡協議会
最終評価	令和2年 2月 27日	学校運営協議会・地域生徒指導連絡協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントの視点のもと、PDCA（CAP・D）を実践し外部リソースの活用等により以下の具体的目標の達成

具体的な取組

- 生徒の学力向上のために、主体的、対話的で深い学びに繋がる授業法改善に向け、先進校への視察や授業指導力を高めるための研修を充実させる。
- 少人数学級（数学・英語）の編成や、個性を尊重したきめ細かな指導により、基礎・基本的な内容を確実に身につけさせるとともに、その能力を伸ばす指導を推進する。
- 全国学力学習状況調査や学習確認プログラムを有効に分析や活用し、成績を上げることで生徒に自信をつけさせる。
- 総合的な学習の時間の取組を通して、地域に学び、地域を理解し、地域の人達と共に活動し、環境についての理解を深めて行動できる生徒を育てる。
支援員やボランティアを活用し、個に応じた適切な支援を行う。（フリスタ・未来スタや土曜学習）

（取組結果を検証する）各種指標

- 学校運営協議会の学習部会との連携においてさらなる活性化を図り、学習確認プログラムや週末課題の効果を分析する。
- 学力向上委員会と連動した教科会を実施し、課題に対しての教職員の共通理解を図る。
具体的項目 教科の授業を大切にしているか・教科の授業はわかりやすいか・定期テストや学習確認プログラムへの準備・各種テスト

中間評価

各種指標結果

生徒・（保護者）

- 教科の授業を大切にしている。 平成30年度 93%（86%） ⇒ 令和元年度 93%↑（87%）
- 教科の授業はわかりやすい。 平成30年度 86%（77%） ⇒ 令和元年度 88%↑（78%）
- 定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。
平成30年度 68%（68%） ⇒ 令和元年度 74%↑（67%）

自己評価

分析（成果と課題）

- 全国学力学習状況調査より、各教科正答率や各教科の「勉強が好き」・「将来社会で役に立つ」という質問に対しても平均を超える結果であり学習の意義や授業に対する姿勢が定着してきた。一方、家庭学習や計画を立て勉強する項目については非常に低い数値であり課題が残る。
- 教室整備等の学習環境や教材工夫等による授業改善に取り組んできたことで、学習を大切にすることの意識の向上が見られた。特に、「授業が分かりやすい」項目の上昇には、対話的な手法を使っている授業が増えてきたことにあると感じる。
- テスト1週間前に行っている授業後の学習の時間の設定や、学習確認プログラム前の各学年の取り組みにより生徒の学習に取り組む意識が向上してきた。しかしながら、家庭学習の時間や学習内容に課題があり後期に向け改善が必要。

分析を踏まえた取組の改善

- グループ学習や思考ツール等の手法を取り入れた授業を取り入れ、「自主的・対話的で深い学び」につながる授業改善や工夫を目指す。
- 授業改善にむけ、先進校への視察や研修会への参加を促し全教員の授業力向上を目指す。

	<p><input type="checkbox"/>各教科による授業とリンクした家庭学習課題の設定と週末課題から日々行う家庭学習への移行を図っていく。</p> <p><input type="checkbox"/>総合的な学習の再考と探究的な学習を取り入れていくことにより，“自尊感情”や，“夢や目標をもちそれに向かって努力する”ことへの改善を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>総合育成支援委員会を通し，支援を要する生徒の情報共有を徹底する。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/>学校評価アンケート(確かな学力)の分析，学習確認プログラムの結果と分析，進路希望調査，教育相談の実施。</p> <p><input type="checkbox"/>自ら主体的に学ぼうとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>「授業の中で『わかった』『できた』と感じる場面がある。</p> <p><input type="checkbox"/>「将来の夢や目指す目標に向かって，勉強することができている。」等の追加項目の設定。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/>授業中，いきいきとした生徒の姿が多くみられるようになった。教師の言葉遣いが丁寧で，生徒に問いかける授業が見受けられ変化を感じた。</p> <p><input type="checkbox"/>対話的な場面で参加できない生徒に対する対応が課題である。</p> <p><input type="checkbox"/>休日参観や様々な行事参加で授業の様子を見ることはよい。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習や土曜学習への取り組み方について，PTA・学校運営協議会もできる限りの支援を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>学校，家庭で提出物や基本的な生活習慣についての指導を徹底していきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の担い手の育成に向け今後より一層，学校運営協議会も学校経営に参画していかなければならない。</p>

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p><学習確認プログラム結果の分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生学習確認プログラムの，今年度 1st と 2nd の指数比較では，総合+4.5 国語+5 社会+4 数学-5 理科+6 英語-2 で，全市平均+3 と指数の比較では上昇した。 ・2年生の学習確認プログラムの，Pr 3 のでは，全市平均で総合+2.5 国語+2 社会+1.5 数学+2.4 理科+5.4 英語+0.9 と学力が定着してきた。特に理科の指数が上昇した。放課後の学習の成果が出てきた。 ・1年生学習確認プログラムの今年度の Bas では，総合-2 国語-0.4 社会-3.6 数学-5.4 理科 +1.3 と全市平均を-2 下回る厳しい結果となった。 <p>※5教科において月毎・単元毎に復習プリントなどを準備し，定期テスト前はもちろん，家庭学習の習慣化を図りたい。</p> <p><生徒及び保護者アンケート調査結果></p> <p>○教科の授業を大切にしている。(生徒 95 % : 保護者 86 %)</p> <p>→ 着実に学習意欲が向上し結果が出てきている。</p> <p>○授業や家庭学習など，自らすすんで学ぶことができているか。(生徒 72% : 保護者 68 %)</p> <p>→ 家庭学習の習慣化が今後の課題である。</p> <p>○人の話をよく聞いたり，自分の考えや思いを相手に伝えたりすることができているか。(生徒 90 % : 保護者 80 %)</p>

<p>→コミュニケーション能力の向上の為の授業工夫が必要</p> <p>○定期テストや学習確認プログラムに、きちんと準備をして臨んだ。(生徒 77 % : 保護者 64 %)</p> <p>→定期テスト前に学習に取り組む時間を設定し、学習計画を立て家庭学習の習慣化を行いたい。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>全学年において生徒の学力的課題等を明確にし、その課題克服に向けた授業の工夫や、『深い学び』を育てるために「思考ツール」など教材を活用する。また、授業において本時の目標と振り返りを行い、授業改善につなげたい。学校評価アンケートで、「人の話をよく聞いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりすることができていますか」ではく生徒は 90 %・保護者 80 %>でる。コミュニケーション能力を育成し生徒の学力向上のために、主体的、対話的で深い学びに繋がる授業法改善に向け、次年度も先進校への視察や授業指導力を高めるための研修を充実させる。その中で、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を推進する。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○「思考ツール」の活用により具体的な授業の展開方法や発問についての研修を年度当初から行い、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善作りに向けた教師の指導力向上を目指す。</p> <p>○確認テストに向けた学習定着への意識付けを教科会で検討する必要がある。</p> <p>○授業における学習確認プログラム「予習シート」「フォローアップシート」の活用について定期的に教科会を開催し検討し、来年度の各学年の学習確認プログラム結果を向上させる。</p> <p>○家庭学習の習慣化のために、家庭（保護者）と連携をおこなう。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○生徒同士の教え合い学習の推進と、小中連携を行い学力向上につながるよう取組みをして欲しい。</p> <p>○家庭学習の必要性を感じた。家庭学習の定着をはかるため保護者と連携をおこなう。</p> <p>○地域の人材や学生ボランティアの活用をすすめる。</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>教科学習はもとより道德教育や人権教育、各種行事における体験を通じて自然や命を大切にし、人を思いやる心、美しいものに感動する感性を培い、粘り強く挑戦し、くじけない強い精神力を養い、よりよく生きようとする姿勢を学ぶことで自尊感情・自己有用感を育む。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>すべての学校活動において「自ら考え、表現し、聴く活動」を実践し、とくに表現する場面では多様な表現方法を体現する。</p> <p>□道德教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善にもつなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> * 6月8日（土）に実施する休日参観において1年生；学年道德、2年生；ふれあいドートク、3年生；学級道德を保護者・地域参加型のものとして公開 * 10～11月には道德の公開授業を実施（公開授業は全校道德の形態で実施する） * 12月には収穫祭とリンクした縦割りの全校道德を実施 * 学級道德だけでなく、学年道德・全校道德を状況や時期に応じて企画 * ローテーション道德の実施 * 評価の有効実践

花山スタイルの人権学習をすすめる。

*各学年とも外国人教育を年間で1度は取り上げ、あとの1回は独自の人権課題をとりあげるという外国人教育を中心としたカリキュラムの充実。

各種行事や部活動を通して感動する体験を適切に設定する。

*菜園活動で縦割りの取組

*学校祭（文化の部・体育の部・合唱コンクール）を通じた協働活動

*自分を大切にできるだけでなく他者への思いやりを育てる活動

（取組結果を検証する）各種指標

道徳教育を研究活動の中心に据え、教科の授業の改善の中で取り組みを検討する。

学校評価をもとに、自尊感情・自己有用感を育みなどについて検証する。

具体的項目 仲間を大切にしている・自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている・あいさつができるなど学校や社会のルール、マナーを守っている。

中間評価

各種指標結果

仲間を大切にできてきている。 平成30年度 97% (96%) ⇒ 令和元年度 98%↑ (97%)

自分を大切にでき、自分を誇れる生き方ができている。

平成30年度 82% (81%) ⇒ 令和元年度 85%↑ (89%)

挨拶ができるなど、学校や社会のルールやマナーを守っている。

平成30年度 97% (92%) ⇒ 令和元年度 96%↓ (93%)

自己評価

分析（成果と課題）

全国学力学習状況調査において、ほとんどの生徒が人の役に立つ人間になりたいと思っており、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができますか」という質問に対しても、肯定的に答える生徒が多い。自己の生き方と社会を結び付け、深く考えることができる生徒が育ち始めてきたようである。

道徳授業や人権についての指導を日常的に行い、自他を大切に、いじめを見逃さない体制作りができている。また、障害のある生徒に対する理解に努め、個に応じた指導体制ができている。ネット利用について啓発学習や活動を行っているが、SNSトラブルが依然多く起こっている。

生徒会や部活動、PTAと挨拶運動を日々取り組んでいる結果、地域の方や保護者の方から見て非常に好感を得ている。

分析を踏まえた取組の改善

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる生徒が多く育っている要因として、地域での子供との関りが考えられる。地域行事への参加だけでなく、地域の方々に学校行事への参加してもらう機会をつくり、より一層、今後も効果的な地域と連携を図っていく。

日常の学級での生活や学校行事を通して、仲間作りから集団作りを意識して取り組み、達成感や役割をやり遂げる経験を積み重ねることによって自尊感情を高める。また、家庭や地域と連携して、いじめを見逃さない体制をより強固なものにしていく。

SNSトラブルを未然防止するためのネット利用のルール作りの徹底を図るとともに、最新の課題についての教職員・保護者が研修を行う。

教職員自ら様々な場面で挨拶を行いうなかで意識付けを図っていく。

	<p><u>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</u></p> <p><input type="checkbox"/> 保護者・生徒アンケート，全国学力調査生徒質問紙，他に各学校行事アンケートと教職員アンケートの実施。</p> <p><input type="checkbox"/> 「他を思いやる指導・自分を大切にしている指導・いじめを見逃さない指導」ができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 「ルールを守る態度の育成」ができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもは，自分を大切にしたい行動・仲間を大切にしたい行動」ができています。</p> <p>等の追加項目の設定</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p><input type="checkbox"/> 地域，保護者，PTAが協力し，学校とともに地域の子供は地域が育てるという思いで生徒の育成に努めていく。そのためにも，学校への行事や授業参観等に積極的にかかわる。</p> <p><input type="checkbox"/> 人権学習の充実だけでなく，支援を要する生徒や不登校生徒への対応や学活や道徳の取組を取り入れていく必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種行事や部活動を通して感動する体験を適切に設定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業を受ける子供に変容が見受けられてき。子供が主体的な学ぼうとする授業や体験等，よく工夫されており，生徒は安心して授業に取り組むことができています。</p> <p><input type="checkbox"/> SNSトラブルは社会的な大きな問題である。地域でも生徒の様子をしっかりと見守り，未然防止に努めたい。</p>

最終評価

<p><u>中間評価時に設定した各種指標結果</u></p> <p>○仲間を大切にしている。 平成30年度 97% ⇒ 平成31年度 97%</p> <p>○自分を大切にでき，自分を誇れる生き方ができている。 平成30年度 81% ⇒ 平成31年度 86% ↑</p> <p>○挨拶ができるなど，学校や社会のルールやマナーを守っている。 平成30年度 97% ⇒ 平成31年度 97%</p> <p>*ここ数年，高い数値を維持できている。道徳の授業の取組や，学校行事での集団活動，授業改善による結果が出てきている。今年度は，新垣勉（オペラ歌手）に講演をお願いし，「豊かな心」の育成に向けて活動を充実させることができた。継続して，道徳授業で集団作りを高め，自尊感情や自己有用感の育成に取り組みたい。</p>
--

<p>自己評価</p>	<p><u>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</u></p> <p>○「仲間を大切にしている，あいさつができるなど学校や社会のルール，マナーを守っている」は平成28年97%・平成29年93%・平成30年97%・平成31年97.7% と高い水準を継続している。</p> <p>○「自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている」は平成28年78%・平成29年77%・平成30年82%・平成31年85% と今年度上昇した。外部から講演をお招きし自己有用感・自己存在感の育成を推進することが出来た。</p> <p>○「部活動に一生懸命取り組んでいる」81%で粘り強く挑戦し，くじけない強い精神力を養い，よりよく生きようとする姿勢を学ぶことへの意識の高まりであると感じる。</p> <p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>○生徒会本部・生活委員会・部活動の連携の中で，他人を思いやる心・優しい心・柔らかい心など</p>
-------------	---

	<p>を身に着け、感性豊かな人間性を育む。</p> <p>○円滑な人間関係の構築を目指し、自己と他者との関わりを大切にする心を育てる教育活動をあらゆる場面で実践する。</p> <p>○すべての教育活動において、教職員が人権教育を教育活動の根幹に据えた取組を推進し、生徒解を基盤に日々取り組む。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○よく挨拶してくれる生徒が増えている。</p> <p>○学校と地域が協働する中で、学校行事や地域行事を行う。</p> <p>○昨年度、課題であった「自分を大切にでき自分を誇れる生き方ができている」も85.9%と向上し道徳教育の成果があった。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>体育の授業での基礎体力づくり活動や部活動を通じて、健やかな体を育む。また、心の健康にも気を遣わせるよう意識して取組を工夫する。</p>
<p>具体的な取組</p> <p><input type="checkbox"/> 保健体育の学習</p> <p>体育の授業を通じて体力と運動能力の向上を目指して取り組むと共に、保健の学習を通じて心身の健康に向けての理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 部活動</p> <p>運動部活動において心身を鍛えることの意味と喜びを感じさせる。また、健康と体力の保持増進のためには食と休養（睡眠）とが大切であること、そして事故を起こさない安全の大切さを理解させ実践させる。また、文化系の部活動においても心身、特に心の健康について理解を深めさせると共に実践させる。今年度から毎週水曜日を週休日とし、部活動を運営する。</p> <p><input type="checkbox"/> 不登校生徒へのきめ細かい指導</p> <p>これまでから不登校傾向にある生徒に対しては、特にきめ細かい心の通った指導を心掛けてきており個々に応じた指導や取り組みを心がけ、画一的なものにならないようにとくに配慮していく。また生徒だけでなく保護者の気持ちに寄り添った指導を実現させていく。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p><input type="checkbox"/> クラスマネジメントなどの活用により、実態分析とめ細かい心の通った指導について職員会議等で検証する。</p> <p><input type="checkbox"/> 体力と運動能力の向上と身の健康に向けて、学習・部活動において各部会を通じ共通理解と取り組みの検討を行う。</p> <p>具体的項目：部活動などの課外活動に一生懸命取り組んでいる・運動や読書、DVD鑑賞などストレスをため込まない術がある・早寝、早起き、朝ご飯など自分の健康管理に努めている。</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/> 部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。</p> <p>平成30年度 89% (83%) ⇒ 令和元年度 91% ↑ (89%)</p> <p><input type="checkbox"/> 運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。</p> <p>平成30年度 85% (88%) ⇒ 令和元年度 81% ↓ (89%)</p> <p><input type="checkbox"/> 「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。</p>
--

平成30年度 74% (68%) ⇒ 令和元年度 77% ↑ (65%)

自己評価	分析（成果と課題） <input type="checkbox"/> 同じ時刻に起床、就寝することは、昨年以上に達成できている。しかしながら、朝ご飯を食べずに登校している生徒が多い。起床時間や睡眠時間が短いという問題がある生徒が多い。食教育や委員会活動、保護者啓発などを通じて改善していかなければならない課題である。 <input type="checkbox"/> 部活動や行事等を通じて充実した健康保持増進に対する取り組みができた。 <input type="checkbox"/> 日々の生活習慣だけでなく飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性、携帯電話についての危険性やルール、正しい知識の定着、危険な行為から身を守る指導にも取り組んでいかなければならない。
	分析を踏まえた取組の改善 <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 <input type="checkbox"/> 健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。 <input type="checkbox"/> 携帯・薬物乱用防止教室・防煙教室等を開催し、危険な行為から身を守る指導を継続する。 <input type="checkbox"/> 部活動ガイドラインの設定による部活動以外の時間の過ごし方について、学校と家庭で協力体制を構築する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <input type="checkbox"/> クラスマネジメントの活用と保護者・生徒アンケート、全国学力調査生徒質問紙、教職員アンケートの実施と分析。 <input type="checkbox"/> 「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導」ができている。 <input type="checkbox"/> 「規則正しい生活習慣の確立」ができている。 <input type="checkbox"/> 「子どもはルールや決まり事を守る」ことができている。 等の追加項目の設定
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <input type="checkbox"/> 共働き等、生活環境の変化による食生活の在り方が時代とともに変わってきており心配である。 <input type="checkbox"/> 違法薬物の乱用の低年齢化が心配である。今の時代はSNSなどを使って簡単に手に入ることから、地域や家庭での教育力や啓発活動、関係機関との連携が大事である。 <input type="checkbox"/> 不登校生徒への支援が気になる。 <input type="checkbox"/> チャレンジ体験で生徒の活躍がよかった。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

○部活動など課外活動（学校外での活動を含む）に一生懸命に取り組んでいる。

平成30年度 89% ※保護者 83% ⇒ 平成31年度 89% ※保護者 88%

○運動や読書、DVD鑑賞など、ストレスをため込まない術がある。

平成30年度 78% ※保護者 88% ⇒ 平成31年度 86% ※保護者 89%

○「早寝・早起き・朝ごはん」など、自分の健康管理に努めている。

平成30年度 72% ※保護者 68% ⇒ 平成31年度 75% ※保護者 72%

・今年度も部活動に参加している生徒や、地域のスポーツクラブなどに参加している生徒について、積極的に取り組んでいることが現れた。さらに、部活動休養日などを利用して心身の休息も行えている。

<p>ただし、生活リズムについてはまだまだ委員会活動を通じて検討する。</p> <p>・保健室来室人数は後半増加傾向にあり、特に女子生徒の増加が気になる。課題のある支援の必要な生徒に対して、生徒はもちろん保護者も含めたケア・指導など、きめ細かな対応を継続する。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○おおむね、重点目標の達成が来ている。</p> <p>○課題のある生徒への基本的な生活習慣に関する指導を、保護者を交えて家庭訪問や懇談会で行う。心配な生徒への対応は、保護者・SC・SSWとも連携する。</p> <p>○帰宅してから就寝するまでの時間の使い方と、その時間内に学習時間をどう組み込むかを学年に応じて指導する必要がある。</p> <p>○次年度は、家庭学習時間の充実を、小中連携を通じて習慣化させたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○部活動休養日を水曜日に固定する取組を継続する。</p> <p>○規則正しい生活のリズムを作る一助として、学校での点検活動を定期的におこなう。</p> <p>○課題のある生徒への基本的な生活習慣に関する指導を、保護者を交えて家庭訪問や懇談会で行う。</p> <p>○帰宅後の時間の使い方を、学習指導部と連携し各クラスで実施する。</p> <p>○メンタル面で心配な生徒への対応を、学年・学校として把握しながら、SC・SSWとも連携する。</p> <p>○心身を鍛えるとともに、基本的な生活習慣を定着させ、日々の健康安全を守る取組を推進する。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○全般的には目標達成はできている。</p> <p>○保護者と生活習慣を定着させ、日々の健康安全を守る取組を推進する。</p> <p>○地域や保護者も含めた働きかけが必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣を身につけ健康な生活を送るためには、家庭の果たす役割が大きい。生徒への指導だけでなく保護者への啓発指導が大切である。</p>

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>地域に支えられた小中学校として、現在並びに未来にかけて地域に貢献できる人材育成という視点を大前提として、「自ら学び未来を切り拓く自律心あふれる心身ともに健康な子どもの育成」 ～家庭・地域の想いととともに～</p>
<p>具体的な取組</p> <p><input type="checkbox"/>正しい知識と判断力とをもち、話し合いや行動ができる人</p> <p>①学びのルールを身につける②自学自習の習慣を身につける③読解力を身につける</p> <p><input type="checkbox"/>相手意識をもち、自分の考えや意思を伝えられ、将来の自分を見据えて努力できる人</p> <p>①相手の立場に立って考え、行動できる②いじめを許さない</p> <p><input type="checkbox"/>「夢」と「目標」実現させるため心身の健康の保持と増進に努められる人</p> <p>①基本的な生活習慣を身につける②規範意識を身につける③主体的に運動やスポーツを楽しむことができる④飲酒、喫煙、薬物の危険性について正しい知識を身につける</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p><input type="checkbox"/>小中統一学校評価を実施し取組みについて分析を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>3校合同研修会（総会）を実施し研修会での検証を行う。</p> <p>具体的項目：小中統一評価項目6点</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/> 学校行事に楽しく参加した。 平成30年度 93% (92%) ⇒ 令和元年度 90% ↓ (92%)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校には楽しく来ることができている。 平成30年度 87% (88%) ⇒ 令和元年度 89% ↑ (93%)</p> <p><input type="checkbox"/> 花山中学校の教職員は、生徒のことを大切にしている。 平成30年度 95% (95%) ⇒ 令和元年度 95% → (96%)</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p><input type="checkbox"/> 学校行事が多く、いきいきとした姿が様々な場面で見受けられ一生懸命取り組めた。</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒の心の変化を察し、きめの細かい心に寄り添った指導を繰り返し行えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 正しい知識と判断力とをもち、話し合いや行動ができる力を、話し合い活動等を通じて身につける取り組みができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p><input type="checkbox"/> 今後は、より一層、生徒が主体となり運営等にもかかわれるような学校行事や地域や保護者も一緒に参画できるようなプログラムも検討するなど、世代を超えた交流の場を設ける。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域への関心を高めるとともに、地域に誇りをもち、次代の担い手としての自覚につながるような伝統文化体験学習を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校評価をもとに、自尊感情・自己有用感を育みなどについて検証し改善をおこなう。</p> <p><input type="checkbox"/> 開かれた学校として学校公開・学年便り・学級通信・学校HP等での学校の様子を発信する。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスマネージメントなどの活用により、実態分析とめ細かい心の通った指導について職員会議等で検証する。</p> <p><input type="checkbox"/> 小中連携における持続可能な9年間の学びの構築を図る。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/> 小中統一学校評価を実施し取り組みについて分析を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3校合同研修会（総会）を実施し研修会での検証を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 小中統一評価項目での生徒・保護者アンケート</p> <p><input type="checkbox"/> 「生徒が主体となり取り組んでいる」</p> <p><input type="checkbox"/> 「授業で学んだことが、他のことにも生かされている」</p> <p><input type="checkbox"/> 「HP等から開かれた学校の様子が見受けられている」</p> <p>等の追加項目の設定</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/> 学校行事だけでなく、地域行事にも積極的に参加してもらい感謝している。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者も学校行事へ参加しやすい雰囲気で大変うれしく思う。本年度、合唱コンクールで保護者も参加し生徒と一緒に歌えたことに感激した。</p> <p><input type="checkbox"/> 小中学校が連携して取り組んでいる成果が出ている。今後は、学習交流などができないものか。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校運営協議会や地生連として、地域の諸団体の会合等でアピールしていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 学年だよりやHPで、学校の様子がよく発信されている。今後もぜひ継続していただきたい。</p>

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>『学校評価アンケート』小中一貫の項目（「よくできている」「だいたいできている」と答えた割合）</p> <p style="text-align: right;">（太字…前回比UP）</p>

	鏡山小	陵ヶ岡小	花山中
「自ら進んで学ぶ」……………	80%	80%	73%
「話を聴き、思いを伝える」……………	83%	80%	90%
「周囲の人を大切にする」……………	97%	96%	98%
「自分からあいさつ・感謝の言葉を言う」…	94%	91%	97%
「自分から進んで運動をする」……………	77%	77%	65%
「規則正しい生活習慣への努力」……………	76%	78%	81%

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分からあいさつ・感謝のことばを言う」という項目が3校とも伸びていた。 ○中学校は学校評価の結果が全体的に上がっている。 ○学校評価の結果の交流をし、地域にも地生連等で発信することができた。 ○小中合同研修を通して各校の学力状況の交流をし、指導の方向性を共有できた。 ○課題として、管理職・主任間での情報共有を次年度おこなう。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力や学校評価の結果を共有し、義務教育9か年を見据えた指導を心がけていきたい。 ○「あいさつ運動」は小中合同で取り組んでおり、一定の成果は出ている。「小中一貫教育の推進」には、3校の教職員レベルの交流だけでなく、児童生徒・保護者・地域が共通理解をして取組を進めることが大切であり、そのためにもあらゆる場所での「交流・対話」を大切にしていきたい。 ○「主体的に学びこと」や「運動習慣」、「生活習慣」には課題が見られ、改善に向けて3校が連携して取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帰宅後から就寝までに、学習時間の確保定着について模索してほしい。 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な生活を送るためには、家庭の果たす役割が大きい。生徒への指導だけでなく保護者への啓発指導がやはり重要である。

（5）業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>限られた時間の中で、教職員の専門性を生かしつつ、授業の改善や生徒に接する時間を確保する。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> □教職員の健康や休憩・休日の確保を行い新しい時代の教育に向けた学校体制の構築。 時間外勤務の削減（部活動指導は、土日1日の休養日を設定かつ3時間程度の活動） □業務の効率化と教職員自らの勤務時間を意識した働き方の実行。 働きやすく魅力ある職場づくり。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> □時間外勤務の上限の遵守（年720時間以内・複数月80時間以内の勤務） □教職員一人一人の健康状態の掌握。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p><input type="checkbox"/> 出退勤システム 80 時間以上勤務した教職員数は、昨年度に比べ本年度減少した。</p> <p><input type="checkbox"/> ストレスチェック表の積極的な提出。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p><input type="checkbox"/> 昨年度に比べ、教職員全体が効率よく業務をこなすことにより、時間外勤務が減少した。</p> <p><input type="checkbox"/> 会議等において働き方改革についての意義を伝えることによって計画や目標を持って業務に当たることができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校行事や定期考査前などについては、超過勤務がみられ改善が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒指導上の家庭訪問や保護者対応のため超過勤務が続く日があった。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p><input type="checkbox"/> 日々の仕事への優先順位を明確に業務の効率化を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報やデータの共有を図り、業務の簡略化を目指す。</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒指導事案における対応を削減するため、日頃からきめ細かい生徒や保護者との関係づくりの構築に努める。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p><input type="checkbox"/> 各学年ボード等使い、退勤時間や仕事の優先順位がわかるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 月末に効果的な業務であったかを検討する場を持つ。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p><input type="checkbox"/> 働き方改革にむけ地域やPTAの方々から協力と理解を得られることができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の子供は地域で育てるのが重要である。そのためにも、効果的に地域人材を活用の協力を得た。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校においても「勤務時間」を意識した働き方の意識付けが大切である。</p>

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>○システムの運用については、ほとんどの教職員が運用でき定着した。部活動等の勤務入力を定着する必要がある。</p> <p>○時間外勤務状況も昨年度と比較すると、大幅に勤務時間が減少した。</p> <p>○業務改善については、優先順位や見通しが必要である。</p> <p>○部活動ガイドラインに基づき、土日祝の活動が把握しやすくなった。《年次休暇取得状況の確認》</p> <p>○長期休業中に休暇を積極的に取得する教職員が増えた。</p> <p>○ストレスチェックでは業務の簡略化として、センターサーバーでのデータ共有など、物理的に多い業務に対し仕事量のストレスを低くなるよう改善できた。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○部活動指導と生徒指導対応に費やす時間が多く、生徒指導対応では継続するケースも多いため厳しい状況があった。</p> <p>○教材研究など、教職員の「頑張らなくては！」の意識が高く、勤務時間の意識はあるもの、結果的として時間外になってしまう教職員が数名いた。</p> <p>○根本的な解決に向けては、部活動導指導員などを活用する。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">○今までの取組を粘り強く継続する。○各学年ボード等使い，退勤時間や仕事の優先順位がわかるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">○教員の時間外勤務については，引き続き大きな問題として捉えている。○この現状を理解し保護者や地域に伝える。また，地域の人材の活用に協力する。